巻　頭　言

学部長　村　瀬　智　子

今年度、日本赤十字豊田看護大学紀要は、第13巻の発刊を迎えます。12年単位で循環する干支で言えば、新しい循環サイクルのスタートに立ったということになります。本学は、赤十字の理念を基盤として看護学を学ぶ大学です。看護は、Artとしての‘技’とScienceとしての‘知’が融合した活動であり、学問としての看護学は統合的な人間科学という特徴のもとに‘技’と‘知’を探究し続ける使命があります。その探究のプロセスが研究です。

研究は、未知のジャングルの中を探検するプロセスにたとえることができると思います。私たちが知り得る知識には限界があり、この世界には時空を超えて多くの未知の事象が広がっています。その世界の中で、道なき道を探し、わくわくしながら新しい‘知’を発見する楽しさを目指すのです。しかし、このプロセスは決して楽なことばかりではありません。時には嵐に出会い、これまでの研究成果が失われることもあります。しかし、私たちは、専門職者として、あるいは教育者として、どのような形であれ、‘知’と‘技’を探究し続けることが必要になるのです。

大学の紀要のもつべき役割は、このような未知の世界で新しい‘知’を発見するプロセスにおいて、原石のような‘知’を報告し、共有する場を提供することではないでしょうか。いわゆる学術誌の型にはまらない研究や、一般化するにはサンプル数が不足している研究、研究の途上にある報告等も、一つの研究成果として紀要の紙上で共有することで、今後の研究の方向性を知ることができます。

武道や伝統芸能の修行の過程では、「守破離」という考え方があります。これは、修業における3つの段階を示しています。「守」は、先人の教え、すなわち、型や技を忠実に守り身につける段階です。「破」は、他の型や技についても考えながら、より良いものを取り入れるべく心の修行を行う段階です、なぜなら、心のこもらない技には輝きがないからです。この心こそArtとしての価値を決めるものです。そして「離」は、一つの枠にはまった型や技から離れ、心のこもった独自の新しい型や技を生み出し確立させる段階です。実は、この「守破離」は、F．ナイチンゲールの伝える「三重の関心」、すなわち、「知的関心、技術的関心、看護の対象者への心のこもった関心」と同義と言えます。本学の紀要も、これら3つの関心を発揮し、3つの段階を踏むことが求められると思います。先人から継承されてきた‘知’と‘技’の型を守りつつも、その型を破ることが、新たな創造の契機になると信じています。多くの挑戦的・冒険的論文が投稿されることを期待しています。